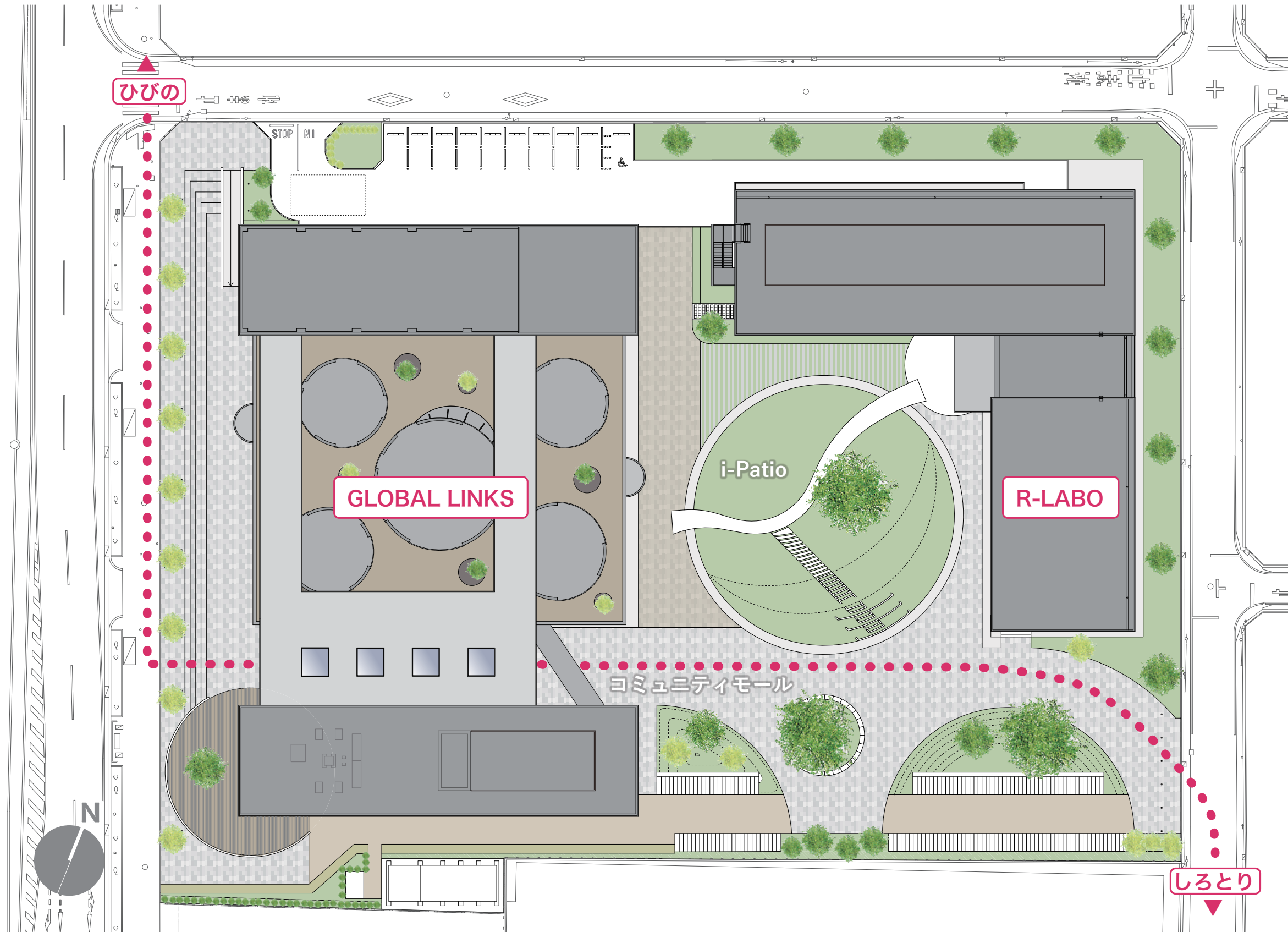


1. LAYOUT PLAN 配置計画

本キャンパス“たいほう”は、名古屋学院大学名古屋キャンパス“しろとり”“ひびの”の中間に位置し、外国語学部、国際文化学部が所属する GLOBAL LINKS、リハビリテーション学部の実習棟である R-LABO が、中央のキャンパス広場“i-Patio”を取り囲むように配置されています。GLOBAL LINKS は本学のグローバル教育の象徴的かつ実践的拠点と

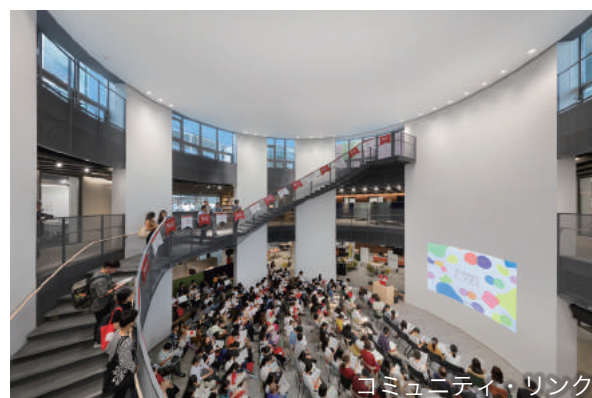
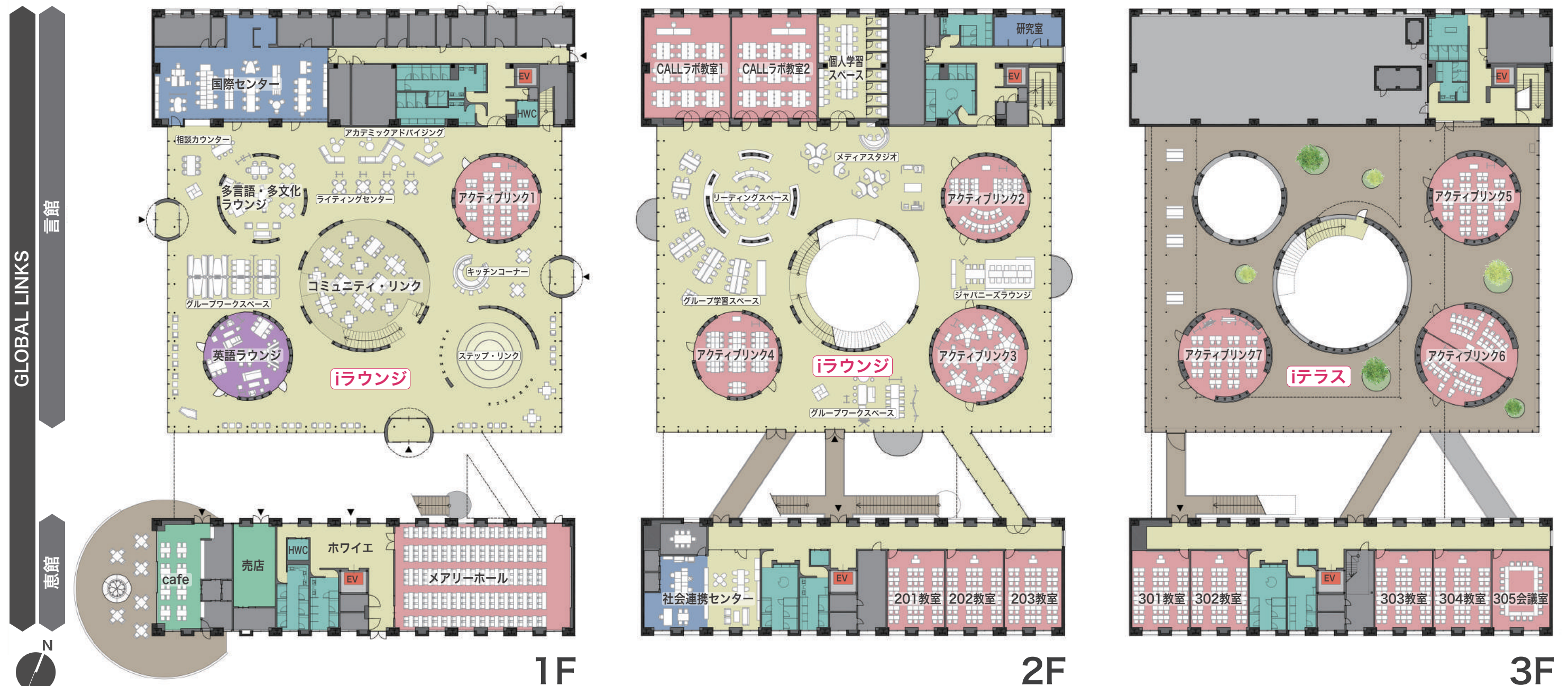
して位置づけられ、“たいほう”の顔として、また来訪者を迎え入れる門となるように計画しました。キャンパス内には誰でも自由に通り抜けることができるコミュニティモールを設け、“しろとり”“ひびの”2つのキャンパスをつなぐ役割を担うとともに地域に開かれた大学を体現しています。



2. FLOOR PLAN "GLOBAL LINKS" 平面計画

外国語教育に重点をおいたラーニングコモンズ“iラウンジ”を中央に配し、非日常的な外国語、異文化体験を日常的に体験することができる空間づくりを行っています。iラウンジには、教員が講義形式で一方的に教えるのではなく、学生たちが主体的に参加するアクティブラーニングを実践する場として、LINK形状のセミナー室等が配置されています。

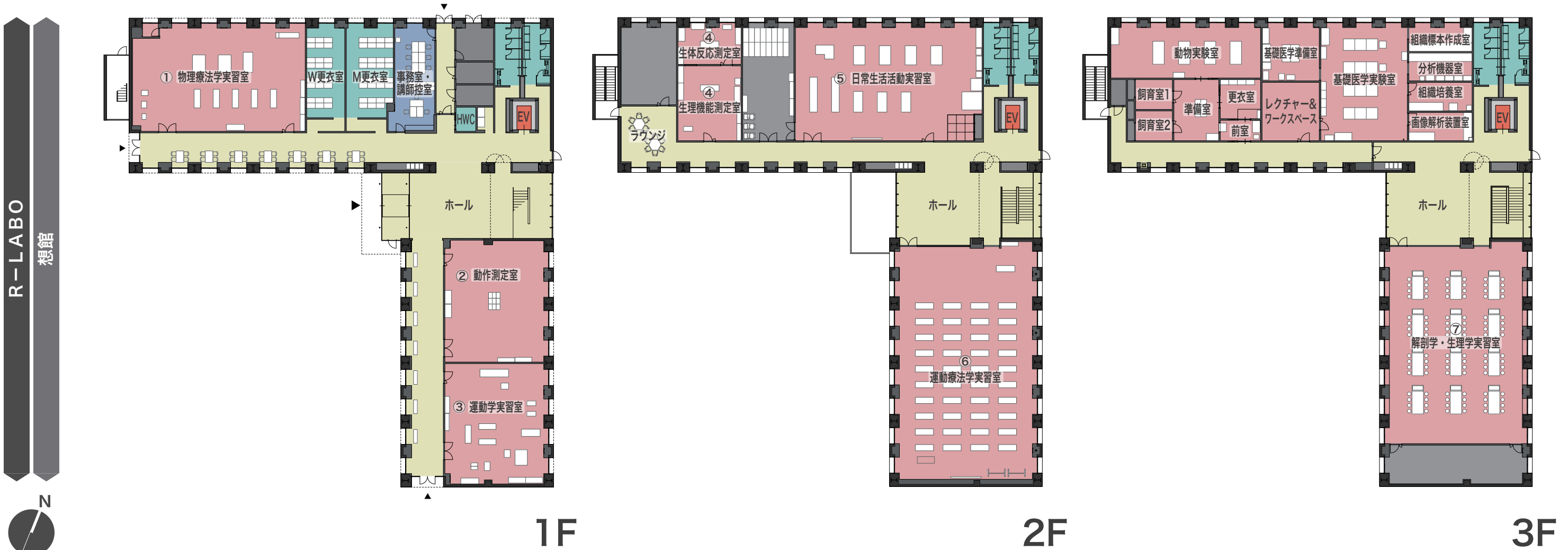
LINKは、プレゼンテーションやグループワーク等、様々なシーンに適した自由なデスクレイアウトを促す形です。またLINKのまわりには様々なスタイルの学習環境を設けており、やりたいことや、人数、そのときの気分に合わせて、自由に学ぶ場所が選べるようになっています。



3. FLOOR PLAN "R-LABO" 平面計画

リハビリテーション学部の実習室は、中央広場に対し、L型に取り囲むように配置されています。1階の広場に面して回廊状に設けた廊下は、ゆったりとした広さを持たせることで、日当たりの良い明るいラウンジとしても利用できます。2、3階の階段のあるホールからは教室の実習風景が見えるよう計画されており、学生同士が互いに切磋琢磨

しながら実習に取り組むことができる環境づくりを行っています。実習室は天井仕上げを行わないことで、実験設備の増設や改修をしやすい実用性の高いつくりとしています。



1階 回廊ラウンジ



2階 ホール



1階 物理療法学実習室

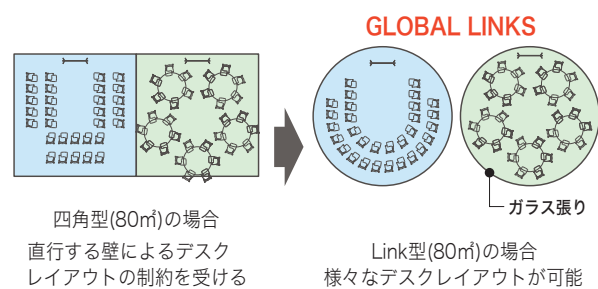


吹き抜け階段

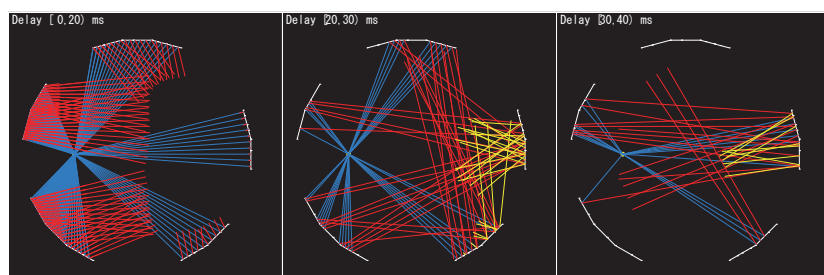
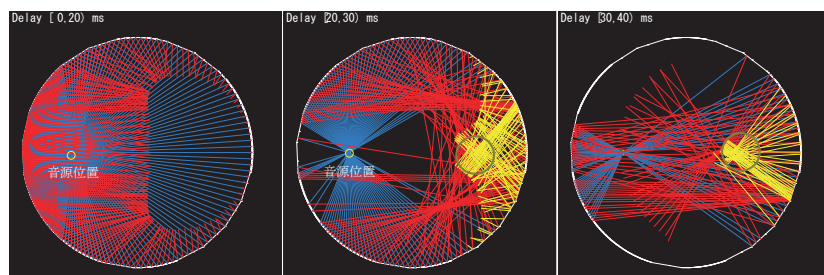
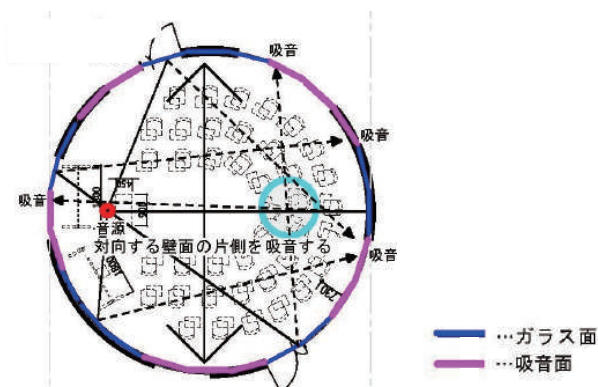
4. ACTIVE LEARNING アクティブラーニング

アクティブラーニングに相応しい形として LINK 形状のセミナー室を設けています。正面性を無くすことで、誰もが主役となるセミナー室です。一方、LINK 形状は、反射した音が特定の一点に集まる音響特性があるため、音響シミュレーションにより、音の集中を効果的に低減する対策を行うことで、快適性も確保しています。

アクティブラーニングに最適な丸いセミナー室
セミナー室を LINK 型とし、正面性を無くすことで、自由なデスクレイアウトを誘発し、多様な学習形態を支援する場としています。LINK 型は人と人の距離を最小化し、表情や身振りからも相手の伝えたい情報を感じとりやすくする空間です。



LINK の快適性を確保する音響シミュレーション
LINK 形状は反射した音が特定の箇所に集まる音響特性があるため、音響シミュレーションを行い、音の集中を低減する対策を行っています。



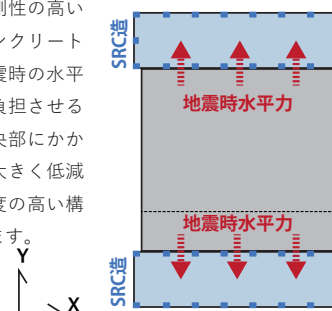
5. STRUCTURE DESIGN 構造計画

両端部を強度・剛性の高い鉄骨鉄筋コンクリート造とし、地震力を大きく負担させることで、中央部にある i ラウンジにはなるべく地震力を負担させない計画としています。その結果として、i ラウンジは LINK 形状の壁と外周部の細い柱のみで支えられる使い勝手の良い大空間を実現しています。



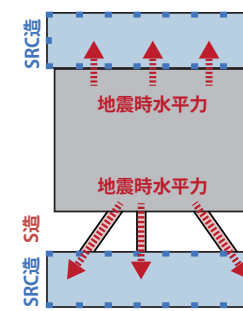
①地震時の水平力を負担する両端コア

建物両端を剛性の高い鉄骨鉄筋コンクリート造とし、地震時の水平力を大きく負担させることで、中央部にかかる水平力を大きく低減させ、自由度の高い構造としています。



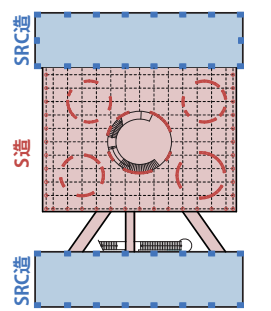
②水平力を効率よく伝達するハの字ブリッジ

中央部にかかる水平力を両端部に伝達するため、貫通路部には各階3本のブリッジを設置し、うち2本のブリッジをハの字状に配置することで、効率よく構造の一体化を図っています。



③円弧格子架構による無柱空間

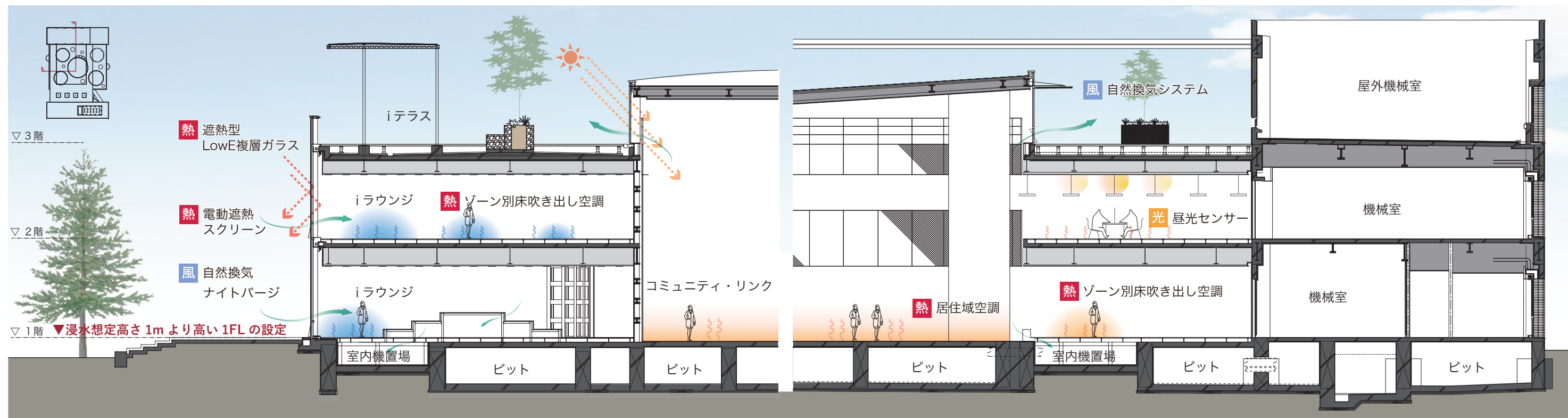
構造的自由度を高めた中央部は、LINK を構成する円弧状の壁と外周部に設けた細柱のみで支えられる、シームレスにつながる大空間としています。



6. ENVIRONMENTAL DESIGN 環境計画

中央に大きな吹抜を設け、光と風を積極的に取り込む環境装置とすることで、自然の力を利用した地球環境に配慮した快適な環境づくりを行っています。空調計画としては、大きなつながりある空間であるiラウンジは、均質に温めたり、冷やすのではなく、人が滞在するところに集中的に空調を行う居住域空調という考え方を取り入れることで、

省エネに努めています。また照明計画は、日中は自然光を積極的に取り込み、夜間は必要などところに必要な分だけ照明を設けるタスク・アンビエント照明を採用することで、過度に明るくなり過ぎない快適な光環境としています。



効果的な重力換気を促す自然換気システム

中央吹抜の上部には重力換気を促す自然換気システムを導入し、中間期における非空調期間の快適性を向上させています。シミュレーションにより無風時で2.3～3.8回/hの換気ができる計画です。

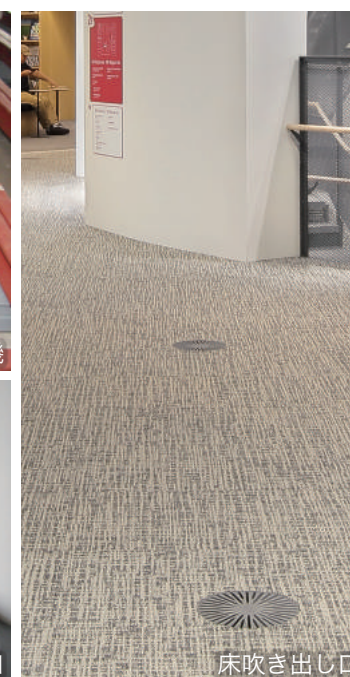
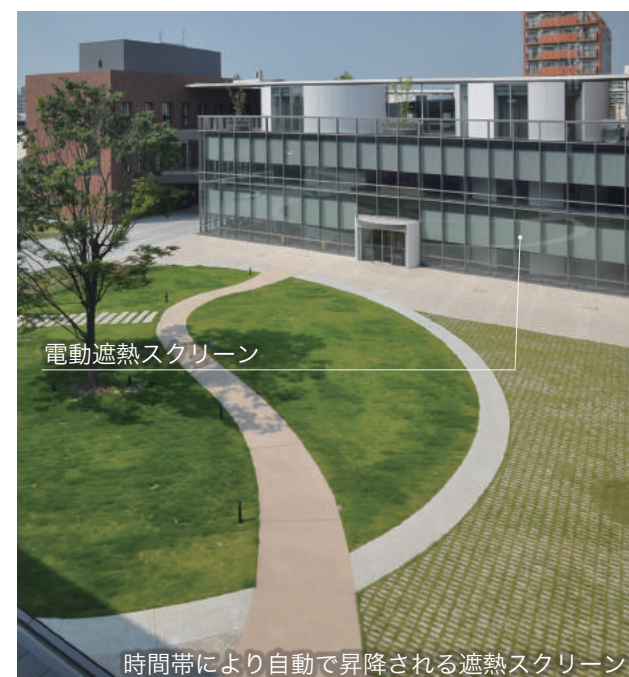
必要なときだけ自動で閉まる遮熱スクリーン

学びの活動風景が外からもなるべく見えるように、スケジューラー付の電動遮熱スクリーンとすることで、直射日光が入る時間帯のみ自動でスクリーンが下がるシステムを採用しています。

省エネルギーに配慮した床吹き出しによる居住域空調とゾーン毎の細やかな個別空調を両立した空調システム

iラウンジはシームレスにつながる約40m×30mの大空間となっており、窓際、奥まった場所、人の滞留する場所、人が通過するだけの場所、様々な場が混在します。そこで空調室内機をゾーン毎の床下に設置することで、細やかな個別の環境設定を行うことができる床吹き出しによる居住域空調としています。また床下を空气の循環スペースとし、空气の吸い込み口はiラウンジに随所に配置した家具等と一体化することで、空調設備を目立たせない工夫をしながら、快適性と省エネの両立を実現しています。

換気制御装置の点検用窓



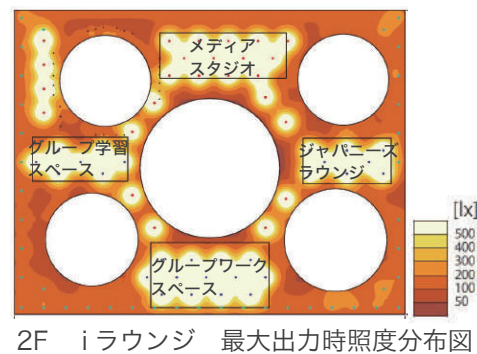
7. LIGHTING CONTROL 照明制御

光源が直接見えないよう配慮し、あたたかも建物そのものが照明装置となるように計画しています。建物を照らす柔らかな光でベースとなる照度を確保し、光が必要なところに必要な分だけ照明を配置しています。内部を明るくなり過ぎないようにすることで外部の相対的な暗がり無くし、安心して過ごせる夜景環境をつくりだしています。



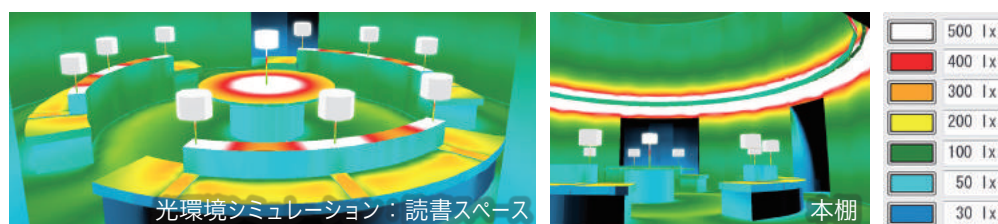
画像センサー付照明による時間帯、滞在人数に合わせた照明制御

i ラウンジは、時間帯によって混雑度が大きく異なるため、画像センサー付照明により、滞在人数に応じて照度を最適化しています。また時間帯に応じて色温度も変化させ、時間の移ろいを自然と感じられる環境づくりを行っています。



明るくし過ぎない照度計画

机上面・床面照度を設計基準通りに確保しようとする内部が明るくなり過ぎてしまい、相対的にその周りは暗く感じるようになってしまいます。本施設では、必要などところに必要な分だけ照明を配置し、細やかな照度設計を行うことで、内外の連続性に考慮しながら、外部の暗がり感を軽減する計画としています。



8. LANDSCAPE 外構計画

敷地全体を学びの場と位置付け、屋外にも様々な学びのきっかけを生む環境づくりを行っています。また道路境界、敷地内を通り抜けるコミュニティモールに沿って緑を効果的に配置し、敷地中央には求心性のある "i-Patio" を設けることで、奥行のある緑を形成し、地域環境の向上に貢献しています。



GLOBAL LINKS から広がる敷地内の多様な学び場

敷地中央に設けた "i-Patio" を中心として、様々な学びのきっかけとなる場を屋外にも設け、キャンパス全体を学びの場としています。誰でも通り抜けできるコミュニティモールを設け、学生間に限らない多様な学びの輪が広がることを目指しています。

地域の緑のネットワークをつなぐ植栽計画

計画着手前に敷地内の樹木調査を行い、既存樹木を活かしたランドスケープとすることで、土地の記憶を残す試みを行っています。また東、北の敷地境界に沿って、"しろとり" から続くひとつひとつの並木を配することで、緑のネットワークをつなぎ、都市景観の観点からもキャンパス間の連携を高める植栽計画としています。

